

伊豫鐵道會社定款中更正ノ件認可ス

明治三十二年十月二十日

鐵道局へ通牒

土庫二三六號

私設鐵道布設之儀上申

縣下新居郡新居濱浦ヨリ今郡立川山村
至凡間鐵道布設之儀別紙之通大坂府
下平民注友吉左衛門外四名ヨリ出願候
間可然御詮議相成度添書ヲ以進達也

明治三十二年一月三十日

愛媛縣知事白根專一



内閣總理大臣伯爵黑田清隆殿

興業鑛道布設願

愛媛縣伊豫國新居郡新居濱浦より同國同
郡立川山村に至ル路程ハ厩カニ貳里半許、不
過ヲ得共抑モ新居濱港タル豫州東部ノ中
央ニ位シ且ツ別子鑛山ノ咽喉ニシテ既ニ製鑛所
ノ設アリ獨リ東豫物産ノ此港ニ據リテ出入スル
自ナラス迄テ鑛業必需ノ物品ニ於ケル亦此港ニ
據リテ輸送セリ則チ大阪商船會社ハ曩キニ定期
ノ航路ヲ開キ以テ荷客ノ運送ヲ為スニ至ル今
般私共私設鑛道條例ヲ遵奉シテ新居濱港
ヨリ立川山村に至ル旅客及荷物運輸ノ目的ヲ
以テ輕便鑛道(幅員二呎)ヲ布設シ海陸相待チテ

蓋：運輸、便利、快活ナラシメ度志望、有之
其向凡ノ右五里間、對スル起業目論見書並ニ
工費豫算運輸營業上收支豫算及ニ略圖
面ヲ添此段奉願也
明治三十二年一月

興業鑛道發起人

大阪府南区鯉谷東ノ所一番地

平民

住友吉光御門

今村全區全所八番地寄附

愛媛縣平民

廣瀬 寧平

愛媛縣伊豫國宇治郡別子山村

石井九郎

士族

廣瀬 坦

今和全國全郡全村石井三郎

士族

大島 信清

今和全國全郡全村石井一孝

高知縣平民

阿部 貞松

内閣總理大臣伯爵黑田清隆殿

付
案
後

蓋：運輸、便利、快活、
其間凡ノ右五項目、對、
工費豫算運輸營業上付
面お添此段奉破光也
明治廿二年一月

山形市立図書館蔵
山形市立図書館蔵

興業鑛道發起人

大阪府南区難波谷東ノ所一番地

平民

住友吉光御門

令府令區令所八番地寄留

愛媛縣平民

廣瀬 幸平

愛媛縣伊豫國宇方郡別子山村

乃五十九番地

士族

廣瀬 坦

令府令區令所八番地寄留

士族

大島 信清

令府令區令所八番地寄留

高知縣平民

阿部 貞松

内閣總理大臣伯爵黑田清隆殿

宣月三十一日付ヲ以テ進達致署位友長
御外四名出願ニ係ル興業鉄道布設、件
ハ行違、庸有之趣ヲ以テ更ニ別紙願書
ヲ出シ、旨進達致、係最前、分ハ下取
消、本、標致、方、此、申、通、也

明治廿二年二月廿一日

吉原 知事 白根 雪一

内家書江長小牧昌三郎殿



知事九

明治廿二年二月十二日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

鐵道局長官照會案

別紙大坂府平民住友吉左衛門外四名出願愛媛縣下新居郡新居濱浦ヨリ今郡立川山村ニ至ルノ間ニ興業鐵道布設ノ件 調査具申可有之此旨及照會係也

明治廿二年二月十五日

總理大臣

別子鐵道會社發起人住友吉左衛門出願同會社設
立及愛媛縣下新居濱浦ヨリ立川山村ニ至ルノ間鐵
道布設ノ件審案候處其線路ハ距離僅々五哩許ニ
シテ主トシテ別子鑛山ヨリ採掘スル鑛物運搬ノ用ニ
供スルヲ目的トスルモノニ有之加之其地形タル一面ハ
海濱ニ接シ三面ハ山脈ニ遮斷セラレ居將來他ニ
向テ延線スル見込モ無之場所ニ付別段支障ナキ線
路ト被存候間陸軍省モ協議候處差支無之旨
回答ヲ得候条及免狀御下付相成可然ト存候依テ
及免狀并愛媛縣知事ノ御指令案共相添此段及
答申候也

明治廿二年四月九日

鐵道局長官子爵井上



内閣總理大臣伯爵黑田清隆殿

仮免状案

第五号

別子鐵道會社發起人惣代佐吉左衛門外四名
愛媛縣下伊豫國新居郡新居濱浦ヨリ同郡立川山村ニ
至ル鐵道布設出願ニ依リ同線路實地測量スルコトヲ
許可ス但此免許状下付ノ日ヨリ滿ハケ月以内ニ私設鐵
道條例第三條ニ記載スル圖面書類ヲ調製シ差出サ
ザレハ此仮免状ハ無効ノモノトス

明治三十二年四月十九日



愛媛縣知事へ御訓令案

別子鐵道會社發起人佐吉左衛門外四名、別紙
仮免状下付候条同人等へ交付シ私設鐵道條例才
三條ニ記載スル圖面書類ヲ差出サシムヘシ

今日

追申創立願書ハ當局ニ下付相成度此段申
添候也

金
通
長

縣甲九号

明治廿二年四月十日

内閣總理大臣

内閣書記官長

各省大臣

内務	外務
陸軍	大藏
司法	海軍
農務	文部
	逓信

別子鑄道會社發起人住友吉左衛門等
出願鑄道私設ノ件

別紙大坂府平民住友吉左衛門外四名出願
鐵道私設ノ件ヲ調査スルニ右ハ同人等發
起人トナリ資本金拾三萬圓ト定メ別子鐵道
會社ヲ設立シ其線路ハ愛媛縣下伊豫國
新居郡新居濱浦ヨリ同郡立川山村ニ至ル
ノ間凡五哩間ニ布設シ主トシテ別子鑛山產
出鑛物ノ運搬ニ供スルノ目的ニ有之其地形
タル將來他ニ向テ延線ノ見込ナキ場所ニ付
別ニ支障ニ有之間敷又私設鐵道條例ニ
抵觸ノ虞モ無之ニ付右發起人ハ假免狀

下付相成可然哉鐵道局長官答申相
添附議ニ供ス

假免狀案

鐵道局長官呈案ノ通

愛媛縣知事ハ訓令案

全上

鐵道局一通深

明治三十四年四月九日